

自律神経失調症

体のあちこちに、痛みやだるさ、不調和があり、様々な医学的検査を行っても異常が見当たらず、軽快、憎悪を繰り返しながら、症状が続く時、自律神経失調症という「病名」がつきます。体が急激に変化する思春期ごろは、自律神経の調節機能が上手く働かず、学校に行けなくなるお子さんもいます。起立性調節障害も自律神経の異常です。体は、交感神経と副交感神経の二つの自律神経の絶妙なバランスを、自動的に調節しながら活動しています。脳（前頭葉）から血圧をあげなさい、とか消化しなさい、とか体温をあげなさい、とかいちいち命令して生きているわけではありません。自動的に調節してくれているのです。その自律神経のツボを ORT でみますと、自律神経失調症は、実に多くの原因が重なって発症していることがわかります。

原因不明の病気の原因を調べていくときには、次のようなチェックを行っています。

アレルギー、ウイルス、細菌、真菌、金属の蓄積、有害な化学物質汚染、電磁場障害、悪性疾患などの可能性等です。調べていきますと、たいてい複数の原因があります。

中には、サイトメガロウィルスの潜伏感染が憎悪していたり、EB ウィルス、ヘルペスウィルス6 が関与していたり、MAC（非結核性抗酸菌）感染や、カンジダが増えていたり、ニッケル、クロム、歯科金属、チタンなどが蓄積していたり、ホルマリン、トルエン、PM2.5、農薬（ネオニコチノイド系など）の被害を受けていたり、スマホ、ゲームなどの、様々な原因の組み合わせで、症状が出ていたりします。

アレルギーなら、頑張ってアレルギーを除去し、経口免疫療法に持ち込み安全に食べられるようにするか、減らして体制を得るのを待つ方法もあります。ペットなど除去できないものは、転写水（既報）が有効です。ウイルスなら、種類によって、それぞれの治療をすることができます。カビなら、食事療法やドクダミなどの自然療法または、抗菌薬も使用することができます。金属の蓄積なら、その金属を取り除けるなら取り除き、キレート剤（自然なもの）を使う場合もあります。化学物質の場合は、できるだけその種類を明らかにし、それぞれの対策を行います。タチオンによる解毒が必要な事も良くあります。

このような原因療法にも、注意しなければならない、落とし穴があります。スイッチ現象ともいえるものです。大きな原因を除くと、より小さな原因が顔を出してくるのです。ですから、良くなったように見えても、見えなくても、再度、診察にお越しいただかなくてはならないのです。もう一つのもは、よく言われているメンタルな面です。これには、バッチフラワーが素晴らしい効き目を見せてくれます。私は ORT で適合するものをみていくのですが、本音を話しにくい方には最適です。問題の在処を教えてください。また、トラウマ対策には漢方薬でも良く効く物があります。カウンセリングを含め、一度お試しください。

鈴木富美